

2025年3月19日
株式会社SVPジャパン

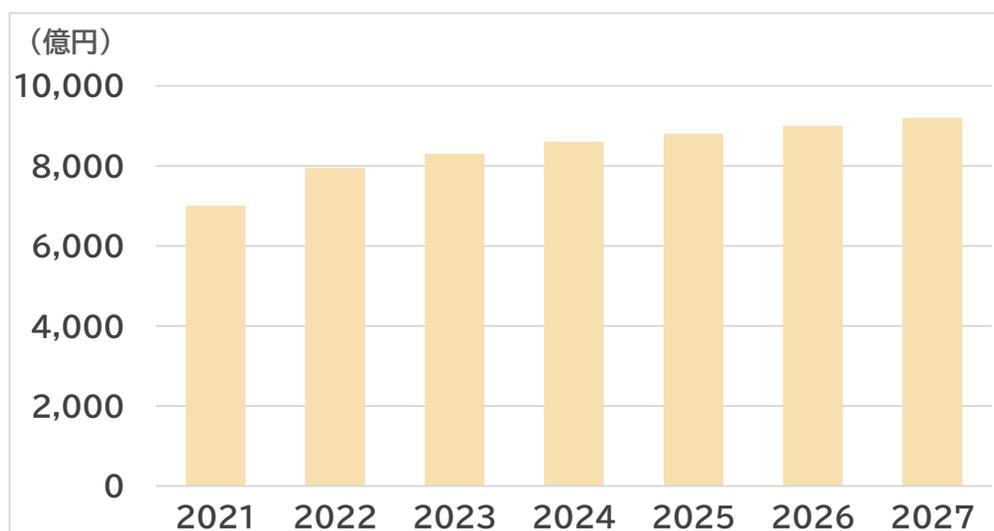
SVP注目市場分析 「OTC医薬品」を公開

～セルフメディケーションの進展と医薬品市場の変化～



会員制マーケットリサーチサービスを提供している、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポート「OTC医薬品-国内市場の現状と将来展望-」を、会員企業向けに公開いたしました。

■ OTC医薬品の国内市場



日本では高齢化の進行に伴い、医療費負担上昇の抑制が重要な課題となっている。政府は「セルフメディケーション」の普及を推進し、その一環としてOTC（Over The Counter）医薬品の利用促進に力を入れている。OTC医薬品は、処方箋なしで薬局などで購入可能な医薬品であり、リスクに応じて「要指導医薬品」と「一般用医薬品（第1類～第3類）」に分類されている。

国内OTC医薬品市場は、2020年・2021年にコロナ禍の影響で一時縮小したものの、2022年には大幅に回復し、2023年・2024年も好調に推移している。市場拡大の背景には、厚生労働省によるスイッチOTCの推進や「セルフメディケーション税制」の導入がある。特に、2021年には対象品目が追加され、申告者数は2022年に4.3万人、2023年には4.9万人に増加している。

■ OTC医薬品の市場概況

OTC医薬品は、政府の推進や健康意識の高まりに加え、品質の高い日本のOTC医薬品を求める訪日外国人の需要も相まって、市場の拡大が続いている。メーカーシェアでは、大正製薬がドリンク剤や総合感冒薬市場でトップを占め、第一三共ヘルスケア（総合感冒薬・解熱鎮痛剤など）、アリナミン製薬（ビタミン剤・ドリンク剤など）、ロート製薬（目薬など）が上位に位置する。OTC医薬品の小売は、薬剤師や登録販売者を管理者とする薬局・薬店、ドラッグストアが中心となっているが、ドリンク剤など一部の製品はコンビニエンスストアやスーパーマーケットにも販路が広がっている。さらに、要指導医薬品を除き、厚生労働省の許可を受けたメーカーや小売業者に限り、インターネット通販も可能となっている。消費者の利便性向上に伴い、販売チャネルの多様化が進み、市場のさらなる拡大が期待される。



■ 本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向
- VI. 業界構造



←レポート全編を見る クリック

※本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

■ 購読について/資料ダウンロード・お問い合わせ

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

購読をご希望の場合、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購入いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クイックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

資料請求

お問い合わせ



■ 次回のテーマ

4月のテーマは「ファストファッション」と「スポーツウェア・シューズ」を予定しています。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール…毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

[会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン
代表取締役 : 橋本 雅
所在地 : 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9 宮前ビル2F
設立年月日 : 1974年7月1日
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス
URL : <https://www.svpjapan.com/>

[本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン DX推進部 デジタルマーケティング課
info@svpjapan.com